石櫻新聞
発行所 盛岡市紺屋町
岩手高中学校
出版委員会新聞部
印刷所 岩手新報社

学校運営諮問機関
五日制研究委員会開かる
委員長に山口先生就任

去る十一月十一日会議室において第一回五日制研究委員会が開かれた。PTA側より教育部長近藤巌、職員側より校長、山中、月野所、柴内、星沢、盛藤の各先生、生徒側よりて一般に学力が低下するように各委員会代表が出席五日制の現状及ぼされるなどについて討議した。先ず最初に委員会の名称について次のように決定した。

名称「五日制運営研究委員会」

縦いて委員に関する件を上提、と報告、次いで近藤氏が五日制の委員会規約立したものであるから委員長を決定することになった。

委員長　山中脳三

書記　盛藤眞中　佐々木久志

指導部長笹原四郎の司会、職員側より校長、山中、月野所、柴内、星沢、盛藤の各先生、生徒側よりて一般に学力が低下するように各委員会代表が出席五日制の現状及ぼされる。先ず最初に委員会の名称について次のように決定した。

名称「五日制運営研究委員会」

定義は学校長にあること

なるというのが上げられている。

次いで定理委員会の土曜日の利用法について意見の交換があり、その結果学校側としては特色を見出すよう指導する、父兄の啓もう運動をすることを決定

次に近藤氏は土曜日の利用法として家庭学習（五日間の復習、予習）、集合学習（五日間の復習、予習）、戸外学習（図書館）を述べ、第二回五日制研究委員会を終った

第二回会合

第二回五日制研究委員会は十一月二十日PTA側から近藤氏、佐藤朗氏、職員、生徒会員出席して行われた

第一回五日制研究委員会を終った十一月十六日午後二時よりPTA側より校長、山中、月野所、柴内、星沢、盛藤の各先生、生徒会代表が出席五日制の現状及ぼされる。先ず最初に委員会の名称について次のように決定した。

名称「五日制運営研究委員会」

定義は学校長にあること

なるというのが上げられている。

次いで定理委員会の土曜日の利用法について意見の交換があり、その結果学校側としては特色を見出すよう指導する、父兄の啓もう運動をすることを決定

次に近藤氏は土曜日の利用法として家庭学習（五日間の復習、予習）、集合学習（五日間の復習、予習）、戸外学習（図書館）を述べ、第二回五日制研究委員会を終った

第三回会合

五日制研究委員会第三回会合は八日午後二時より本校会議室で行われた。この日は不日制生について意見を行った。クラス会では討議した結果、結論を得ず四時散会した

◎構成メンバー

【父兄側】村井源三、藤田金蔵、佐藤朗、笹原四郎、近藤巌、伊子島正夫、村田信人、小林打証、滝上しげ、佐々木良雄

【職員】校長、山中脳三、柴内興宗、月野益治、小笠原哲二、月島正夫、盛藤眞中

【生徒側】菅野綾、斎藤裕、大和照明、佐々木久志、川村祥一、姉帯弘、野崎生一、斎藤鶴、山田義世界史、日本史、人文地理）国語、数学、理科、社会は三科目受験なければならない。なお希望科目だけの受験も認められている。参加料は一人百円で申込みは個人で行ってもよいがなるべく学校単位で申込むよう（盛藤先生まで）

放送設備完成す
放送委員会結成か

六月早々に完成する予定だったこの番組が放送される限に放送設備工事を最後に校内放送の設備は遂く完成した。

これが昨年以来RTA、職員室、校内放送設備は調査の瀬川ラジオ店の係が病気のためのびびになっていたが十一月二十三日拡声器メンバーは別項のようになった。

次いで生徒側委員会は土曜日の利用法について意見の交換があり、その結果学校側としては特色を見出すよう指導する、父兄の啓もう運動をすることを決定

次に近藤氏は土曜日の利用法として家庭学習（五日間の復習、予習）、集合学習（五日間の復習、予習）、戸外学習（図書館）を述べ、第二回五日制研究委員会を終った

第三回会合

五日制研究委員会第三回会合は八日午後二時より本校会議室で行われた。この日は不日制生について意見を行った。クラス会では討議した結果、結論を得ず四時散会した

◎構成メンバー

【父兄側】村井源三、藤田金蔵、佐藤朗、笹原四郎、近藤巌、伊子島正夫、村田信人、小林打証、滝上しげ、佐々木良雄

【職員】校長、山中脳三、柴内興宗、月野益治、小笠原哲二、月島正夫、盛藤眞中

【生徒側】菅野綾、斎藤裕、大和照明、佐々木久志、川村祥一、姉帯弘、野崎生一、斎藤鶴、山田義世界史、日本史、人文地理）国語、数学、理科、社会は三科目受験なければならない。なお希望科目だけの受験も認められている。参加料は一人百円で申込みは個人で行ってもよいがなるべく学校単位で申込むよう（盛藤先生まで）

学力コンクール

新旨手目報主催の第五回学力コンクールは来る一月十四日、盛岡高白樺校舎で行われる。科目は英語（数学）理科（物理、化学、地学、生物）社会、時事問題、一般社会、世界史、日本史、人文地理）国語、数学、理科、社会は三科目受験

佐藤先生講演会

弁護士会会長佐藤朗雄先生は十二月日来校、本校、岩女高、橋高の生徒に「人権問題に関して」講演を行った。

（別項参照）と題して講演を行った。

久布白女史講演

「民主々義の基本的感覚」（二面参照）と題して講演を行った

県教育委員会の求めで来盛された婦人矯風会理事久布白女史は十三日午前十時から盛岡高上田校舎で市内高校生に対し「婦人教育について」と題する講演を行った。本校からは高二生が参加した。

金森先生講演会

国会図書館長金森徳次郎先生は十二月二十日本校、市内高校生に講演した

川村、個人に一位

市内高校弁論部連盟主催の市内高校生弁論大会は十二月三日盛高校で開催、二十三名の各校代表が熱弁をふるった。本校からは川村祥一、浅沼俊昭、上川雅の三君が出場、個人では川村君が「日本の再軍備」と題して日本の再軍備は平和を乱すものであることを強調堂々第一位となった。浅沼君は七位、上川君は大いに力を尽したが余りよい成績ではなかった。この結果総合成績は盛校に続き二位となった

人権問題に関して

佐藤邦雄

【講演要旨】今日は只今行われて居る所の人権強調週間にちなんで人権に関する問題を二、三述べようと思う。さてこの事については古くはフランス革命の人権宣言を始めとして国際連合の人権宣言等、各国において大きな問題として取扱われて今日に致ったのであるが今月の十日が国際連合が八十八ヵ国（今連系八ヵ国が棄権）の同意をもって世界に人権宣言として以来二十周年に当るのでユネスコ二日世界各国に指令を出したことの日を記念することになったのであるがそこで日本でも斯様な週間を設けて大いに人権擁護に乗り出した訳だが先ず、日本に人権に関する政治を振返ってみると徳川時代に白ッ条の現定があったのに拷問を認める、いうことがあったり又女の人身売買など全く驚く可き事があった。最近は人身保護法とか新刑事訴訟法等に依って新憲法事は行われなかったが、そして現在の冒頭の刀はよほど弱まって来ているが、ここに問題となるのは人権尊重と治安のバランスを何処に取るかということである。我国では未だ封建思想が残っているから直に無条件の人権を認めたというわけではだめだ、そこで必要なのは一般のより良い理解であり道徳の心である。これらの諸条件が具はつて先程の問題も解決されるのである

さて、こゝで再びフランス革命について二つの大事件を通べると一つは当時破壊的に、うたわれたバスチーユの牢獄、もう一つは人権宣言である。

かんぐべを破ってその調べを開いたという事で、その大切なことは人権問題の基本的なものである。これが日本の人権宣言に関連して日本の人権宣言はたれが最初に唱えただろうか？私の考えとして、江戸時代「板垣死す命について二つの大事件を通べると一つは当時破壊的に、うたわれたバスチーユの牢獄、もう一つは人権宣言である。その内容は人間の平等の権利と基本民主等至って簡単なものだが、これこそ人権問題の基本的なものである。この週間を良い機会として皆さまの胸に理解力をもって権利と義務を深くわきまえてもらいたい。

最後に、諸君にいいたい事は「憲法ある人生に生きる幸福」と題し所謂「板垣死すとも自由は死せず」というこである」ということ。

（文責・佐々木記）

中学弁論

柏高校創立七十周年記念文化祭一日で終れた。

一月に本校主催で……

高二討論会

第一回学年内討論会は各クラスから、二チームが参加して十一月十三日、盛岡高校生の長髪の是非、試験制度の是非、世界平和は可能か不可能か、多数決の是非等で活発な討論を行ったが審査の結果A組2位、B組1位、C組2位、D組1位となった。

模擬試験

二十五年度第二回模擬試験が十二月九日から十六日迄行われた。科目は英語、数学、国語、理科、社会、理科の五科目である。クラス別参加者数は次の通り。

三A二十三名、三B二十名、三C十五名、二A八名、二B三名、二C八名、一A廿名、一B二十二名

アチューブメント テスト

中学校のアチューブメントテストが十一月八日行われた。科目は英語、数学、国語、理科、社会。

市内中学英弁

去る十月二十八日盛岡市主催の市内中学英弁大会があり本校から中学校英語学芸会を開催することあって前年度EALTH FIRSTでに決定した。この第一回目は手県

民主主義の基本的感覚

金森徳次郎先生講演

【講演要旨】

私は諸君より勝れている訳でもなく、物をよく知つている訳でもない、唯自分の日ごろ考へている所を述べて見たい。

人権週間が十二月四日より行われるが、之は二年前に国際連合で作られたヒユマン・ライト・デクラレーションに基づく物である。これにうたはれて居る基本的人権は人間である以上絶体守られねばならぬ権利であり何人といへども侵す事の出来ないものである、現在民主々義が大いに論ぜられているがその根本となる可きものは何であるかは甚だ曖昧なものである。第一に我々の生活で最も重要なものは自分の心である。これは何ものにも侵害さる可きものではない然し日本では昔からそれがあまり認められて居らなかつた。

然し他の世界ではどうであつたか英国のマグナカルタ、米国のデクラレーション・オブ・インデペンデンス、仏国の議会における、ヒューマン・ライにデクラレーションは、当時の世界の民主々義の発達を語るものである。然し日本といへども、単に時期がおくれたという丈けであつて今からでもおそくはないのであります。

米国のライシュアワー博士の論文の中に「民主々義は時代時代で変化するものである」とある、ヌマ元帥も「民主々義」は何処の国だからとて絶対的によいという事は出来ないと述べている。

憲法の中にも民主々義の根本精神は説かれて居らないのであつて、我々も日本人としての民主々義をよく考へて単なる「アメリカイズムの模倣が最も良い、」等という誤りを犯さぬ様に気をつけねばならない。

私のアメリカ滞在中に目撃した事実から考へて見ると、我々は今迄米国人は国を尊ばず家庭に重点をおかず、すべて人間の集合団体には重点を置かないものであると思所が彼等はその全く反対であり、総べて母国を尊敬し家庭を尊重する事を根本としているのである。又、個人の尊厳性に服従する事、即ち独善的権力に服従せず、個人個人の協力合意に依り社会を形成し社会運営に各人が協力する事がデモクラシイの根本であることに気がついた。

「デモクラシイ・アンド・コ・オパレーション」この関係が総ての部門における民主々義の根本的感覚といへるのではなかろうか。

日本の滅亡した最大の原因は一個の物が総ての権力を有した事に依る。人間は部門によつてお互ひにその権利と義務を認め合い協力して行く所に本当の個人の自由平等があるのであり民主々義の基本的感覚は実にそこにあると思う。

（文責二A [illegible]）

生内先生帰盛

国立音楽院に在学中の生内義夫先生は十二月十五日ごろ、新作をたずさえて帰盛される。

今回の帰盛は冬休みを利用してのもので岩手フイルハーモニックソサイティによつて新作「平和」など三部作第二回発表会が来る一月の中旬公会堂において行われる

本校初の催し
22日 クリスマス音楽会

二十二日、午後一時から本校講堂で音楽部主催のもとにクリスマス音楽会を催すことになつた。参加者は中学、高校併せて二百余名を数え盛会が予想される。主なプログラムは、中三岩岡君のピアノ連弾や、高二村田君のテナー独唱、高一秋浜君のバス独唱等で本校初の音楽会として期待されている、主な種目次の通り。

◇合唱　グリークラブ
神の栄光、聖なる神、ほろほろと等六曲
◇独唱　村田健（テノール）
「マルタ」より「君がみ姿」
◇独唱　山舘義平（未定）
◇独唱　秋浜悟史（バス）
未定

その他中学の部の合唱は各組代表により十六曲や、ピアノ・ソロ、高二高嶋君のソナチネと、岩岡君の連弾種、二重唱では、高三の牛越、大森の両君で「乾杯の歌」等多種多彩である。

柔道正科に復活

文部省では終戦後、学校教育から除外されその跡を絶つていた柔道を明年度から復活すべく関係方面と折衝中のところ、この程了解がついたので正式に明年度から中学から大学まで体育科の正科として課することに決定した。

今度復活させるのは従来の武技的傾向を排除し新生スポーツとして衣替させる意向で、そのため試合方法として階級別の外に年令別ウエイト制も考えている。また従来の当て身や極み技等を禁じ中学校では押え込み等の強引なワザを教えない建前である。本校としては自由選択制として行いたい意向だが場所、タタミの関係でどうなるか未だはつきりと決定していない。

ホッケー部猛練習

昨年国体県予選決勝で盛岡高に不覚にも敗れ、国体出場を逸したホッケー部では今年は必ず県制覇否全国制覇を目指して猛練習をしているが十二月九、十の両日は特に松尾鉱山へ行き、来るべき大会に備えていた

水泳部

志戸平温泉プール開き記念競泳大会は十月三十日行われた。本校関係成績次の通り。

【中学】
▽五十米自由型
❷吉田眞治　❸小野専宏
△百米平泳
❶泉舘英三1分31秒6　❸石田皓
▽五十米背泳
❶遠藤三樹夫41秒8　❷村井健祐
❸照井哲

【高校】
▽百米背泳
❶村井良和
▽二百米平泳
❸佐藤昭八
▽四百米リレー
❺岩手高チーム

ボクシング

◇市内高校対抗
十一月二十七日（県公会堂）
橋、岩手高混成7…6盛岡高
ナット級
今野（盛高）判定三橋（岩高）
モスキード級
砂子沢（岩高）判定北島（盛岡）
フライ級
遠藤（岩高）判定勝田（盛高）
佐藤（岩高）判定池田（盛高）
▽　▲
なおこの日、日大レスリング部主将小田中隣、副主将及川直躬（いずれも本校先輩）の模範試合が行われた

國体で好成績
小林平行棒で一位

高校男子体操県代表として盛岡高の米内君と共に国体に参加した小林陵二、斎藤勉の両君は愛知県一宮市一宮体育館で妙技を展開、次のような好成績を得た

■平行棒　小林一位、斎藤六位
鉄棒　小林四位
跳箱　斎藤一位

ラグビー

▼平舘高グランド開き
平舘高校グランド開き記念高校ラグビー大会は十月廿七日行われた

一回戦
岩手高　9　3—0　6—6　6　盛岡高
二回戦
岩手高　6　3—6　3—12　18　高松高

▼和賀に敗る
全国高校ラグビー大会県予選兼黒沢尻町長杯争奪戦は十一月三日から六日まで四日間和賀高校で行われた

第一回戦
岩手高　6　3—5　3—11　16　和賀高

卓球決勝で敗る

北岩手、南青森中学対抗卓球大会は十一月十二日福岡高校で挙行

一回戦　岩中3—0軽米中
二回戦　岩中3—0八戸中B
準決勝　岩中3—0下の橋中
決　勝　八戸3…0岩中

冬休みの注意

いつも注意することだが、すべて計画的に仕事をすること、冬休みは家での生活が多いから夜ふかしをしない様注意しなければならない。女生徒との交際は礼儀正しく。悪友に煙草なんかどうだなどといわれた時は毅然としてそれを退けるだけの自信が欲しい。せつ那的にそれを判断して正しい方角にもつて行くならば絶対に間違いのない生活が出来る、学生の人格は未完成であると思う、人格を発展させつつあるのだ、学生でも大人よりも立派な人格の所有者はたくさん居るはずだ。常に発展のあるところには性格の正しさと強さが生れる。一日一日を間違いのない生活として過すことを希望する

（指導部長日野岳皓）

冬山の注意

山岳部では冬休み中、冬山に於ける遭難を未然に防止するために次のようなことに注意するよう希望している。

一冬山に行く場合は必ず父兄、学校の許可を得ること。
一天候によく気をつけること。
一リーダーには必ず冬山の経験者を選ぶこと。
一食糧、燃料、衣料等は充分に持つて行くこと。

國體に参加して
小林陵二

第五回国体県代表選手として国体に参加した時の様子、感じたことを思いつくまゝに書き並べて見よう

我々選手は十月二十五日正午公会堂前において県選手結成式を行い二時五十七分の国体臨時列車に乗つた。駅には応援団長始め多数の友達が見送りに来てくれ我々をいろいろと激励してくれた

汽車は二十六日夕方五時ごろ名古屋駅に着いた。さすがは大都市だけあつて歓迎振りもサービス振りも大変華やかであつた。体操の会場は名古屋から汽車で二十分位かゝる一宮市においな行われることになつていた。我々一行は夕闇せまるころ一宮の宿に到着した。その日はゆつくり休養し十七日の午前中は一宮体育館で練習をた

明くれば二十七日朝から日本晴であり、瑞穂競技場で行われる国体入場式を祝うが如く思われた。高校男子の競技は正午から行われることになつていたので栄えある入場式には参加することが出来なかつた

競技は予定より遅れ一時間平行棒規定種目から開始せられた。岩手県チームは小林、斎藤、米内（盛高）の三名からなつている

平行棒においてこの三名が足並をそろえて好成績を挙げ、他県の選手を驚ろかした。次いで鉄棒跳箱の規定種目第一次予選を行つたが四十五県中上位二十県が通過、我々は第三位でゆうゆうと予選をパス、こゝで今でも印象に残つていることは跳箱の規定種目に於て足をくじいて不調であつた我校の斎藤が予想を破つて素晴しいホームを見せ満場の拍手をあびて堂々第一位をしめたことである。これに力を得た我々は翌日の第二次予選に於て四位の新潟県チームにその[illegible]一点と迫まられたが大いに奮闘第三位を固持することが出来この予選通過の十県は互に郷土の名誉を双肩に荷つて最後の決戦場である徒手、平行棒、鉄棒、跳箱の各自の種目において一生懸命戦い、遂に我がチームは全国第三位を固持して試合を終了したのである

我々がこのような成績を挙げ得たのも一に出発に際しての学校長及び諸先生始め生徒諸君の真心のこもつた激励の賜であると心から感謝している

最近の購入図書

科学を創つた人達（白川譲）
忠臣蔵と風俗
田中館愛橘先生（中村清二）
愛の一家（宮原晃一郎）
風と共に去りぬ1、2、3、4（大久保康雄）
生物学標準テスト（本多哲郎）
源氏物語　上、下（与謝野晶子）
人間の成長のために（トーヴァストリート）
現代詩現代短歌現代俳句（塚本哲三、与水実）
中学生全集
星の話（鈴木敬信）
魚の話（末広恭雄）
日本文学教養講座
科学十講　上、下（藤岡由夫）
生きとし生けるもの（山本有三）
若草物語　続（中村佐喜子）
今日の学生のために（天野貞祐）
偉大なる法則の発見（立山二郎）
風は知らない（田代三千稔、佐々本峻）
人文地理（浅香幸雄）
鉄のカーテン背後の死闘
（与謝野秀）
読書論（小泉信三）
万葉集歌　下巻（斎藤茂吉）
ロシヤ小説選（網野菊）
現代新知識辞典（野田照雄）
風と共に去りぬ（大久保康雄）
近代小説（臨田良平等）
解析…標準テスト（東京都立一高数学研究会）
化学の総仕上げ（大学受験研究会）

写真は「自由の重荷」一場面

〃自由の重荷〃を上演

市内高校演劇連盟第四回研究発表会は十一月二十四五日の両日多数の観客を集め公会堂で行われた

参加校は柏高、久保学園、橘高、[illegible]校、岩手高等の七校で

本校はT・ベルナアル作「自由の重荷」一幕を上演した

これは一人の浮浪者が金がないために色々な手段をつくして刑務所に入ろうとするが、運命はそうさせず苦しんでいるところに叔母の遺産がころがりこんでくる……、刑務所に行かずにすんだと思つた時学生の暴動があり、学生の身がわりに、つれられて行くという一人の男の皮肉な運命である

スタッフ
演出　近藤義彦
補佐　小笠原達夫
装置　田鎖純　藤沢克男
照明　大和照男　大矢哲夫
効果　鈴木進日
舞台監督　小田島昭夫

キャスト
シャンボラン　近藤義彦
巡査A　東　宏
巡査B　大山信夫
郵便配達　佐々木英世
下僕の番頭　泉沢利之
弁護士　東　宏

書道展

岩手中高第一回書道展は十一月三日から五日まで市内材木町石田商会画廊で行われた。出品数は中学、高校をあわせて五十点余であつた

市内高校ペンクラブ

盛岡高校、高松高校両文学部では市内高校ペンクラブ（仮称）を組立しようと運動中であつたがその努力が実を結び、去る十二月九日盛岡高校白梅校舎において市内各校代表が集つて創立委員会を開いた、これには本校から宮手タケシ大矢哲夫が参加、クラブの機構その他について意見の交換して来たC同なおクラブに入りたい者は高二佐々木剛まで

送別会の会費は?

高三の送別会など、これから種々の会合が多く行われるだろうが諸君は学校に集会規定があるのを知つていますか? この規定によると石桜会総会、委員会及部会並に学級集会その他会合をする場合は予め関係職員を経て学校長に届けなければならない（出身校の同窓会、同窓会又は学区会も同様）校内の会合の場合は主催者は次のような事に注意しなければならない

一、予め会の内容を学校に報告して関係職員の指導を受ける
二、会費は五十円以下なること
三、会計報告は一週間以内に
四、規定の時間をこえないこと
五、会の役員の慰労会は開かぬ事

告知板

◆故三田前理事長の墓参は十二月三十一日久昌寺において行う。有志多数の参加を希望する
◆スピード部員募集! 希望者は高三石渡戸迄
◆ハンドボール部員募集! 希望者は高二岩渕迄
◆スピーカーは毎週月曜に取り付け金曜に取りはずすこと。なおスイッチは昼食時間以外はOFFに入れること

◆今後紙クズは足洗場そばのドラム罐に入れること

遊戯場の出入禁止

最近市内に遊戯場として表われたピンゴ、射的場、パチンコ、ダンスホール等その他これに準ずるものに出入するのを厳禁する旨、指導部から発表があつた、理由は金銭の浪費やその様な場所のふん囲気を考慮した模様

お年玉葉書販売

十二月十三日盛岡郵便局の係員が本校に出張〃友愛交換に〃とお年玉付年賀ハガキを販売した

学校行事予定

◆十二月二十二日　音楽会
◆十二月二十五日　冬休みに入る
◆十二月三十一日　前理事長墓参
◆一月一日　元旦祝賀式
◆一月中旬　講習
◆一月二十日　冬休み終了
◆二月　予せん会

出版委員会新聞部

高二　大矢哲夫、佐々木剛、佐々木俊、中沢隆史
高一　秋浜悟史、大山信夫
中三　小林義明
中二　栗栖保之助

出版委員会々誌部

高三　川村洋一、野崎生一、村山武、梅津敏昭
高二　大矢哲夫、佐々木剛
高一　秋浜悟史

校外短信

全校生の指紋採取

名古屋明和高校では校長が全校生徒を集め〃諸君の指紋を取りたいが〃と賛否を図つたところ九〇%まで賛成したので同校長は〃防犯上、その他不慮の事故、知らぬ土地での急疑の際の身元調査に役立てたい〃と説明、生徒の了解の上名古屋東署に連絡したので同署でも非常に喜び早速各署の鑑識係員の応援を得て最近全校二千名の指紋をとつた

五学期制度

熊本熊御舟高校では本年より五学期制度を採用している。そこで学期間には一週間程度の休暇をもうけるという素晴しい発案（試験が多い悩みを忘れるべからず）

冬だけ七日制

徳島県池田高校では日中の短い冬期には生徒の帰宅がおそくなり、ことに女生徒には好ましくないというので、休みなしの週七日制にすることに決定した

編集後記

◇高三から「もう君たちでやつてくれ」といわれ不安ながらも取材編集をして見た。満足出来るようなものがないかも知れないが、そこは一年生、どうぞお察しの程を

◇先日中根正世先生が来校され中根式速記について講義されたが、これを機会に本校に〃速記クラブ〃をつくつてはというような声がある

◇指導部長からの冬休中の注意、学習姿よりのアメリカの学生々活共によく読んで冬休みを無事に過されるよう。

大矢哲夫　佐々木剛　中沢隆史
佐々木俊